

黄金の郷

こしえるびと

つむぐストーリー vol.139

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の
メッセージをシリーズで紹介していく。

仲間と共に一歩ずつ前へ

一関市滝沢

菅原

宗一郎さん

Uターンから始まった農業の道

夏の強い日差しを受け、トマトが人の背丈よりも高く伸びている。菅原宗一郎さんは誘引結束機を片手に、誘引作業に集中する。

高校卒業後に仙台の専門学校へ進学し、就職のため上京した。働いているうちにいつしかUターンを考えるようになり、水稻を栽培している実家を継いで就農も選択肢の一つに入っていた。そして結婚を機に帰郷。初めは地元企業の勤めながら父・吉昭さんの手伝いをしていたが、次第に自分で農業経営に挑戦したくなった。独立を期して新規就農ワンストップ相談窓口の門をたたき、自宅の水稲育苗ハウスを活用できることや、JA管内で盛んに栽培されていることから、品目はトマトを選択。販売成績の高いトマト農家の下で研修を積んだ後、2023年、トマト農家としての道を歩み始めた。

一つ一つ挑戦しながら

宗一郎さんは農家として成長するために、毎年新たな目標を一つ設定し、達成を目指している。就農当初は栽培面積を10^アからスタートさせ、毎年少しずつ拡大に取り組み、4年目となる今年は当初の倍の20^アまで広げた。それに応じて収量や販売額も伸ばしてきたが、「大変なことも多かった」と振り返る。特に1年目は分からないことだらけで、先輩農家にたくさん質問しては実践に移すことをとにかく繰り返して、「寝ずに働いた」と思うほど必死だった。

今年からはJAトマト部会が力を入れている秋どりにも挑戦している。他の作型よりも定植時期が遅く、暑い夏に樹の管理をするため大変な面もあるが、「面積拡大に合わせて秋どりにも取り組むことで、長期安定出荷を目指す」と力を込める。

仲間とやりがいを感じて

これからも毎年一つ、新しい目標を自分に課していくと言う宗一郎さん。それは、かつて「現状維持は衰退である」という名言に感銘を受け、少しずつでも成長し続けたいと思っているから。最近は雇用について考えることが多い。作業員にどのように働いてもらうか、人手不足に対応するために何ができるかを悩みながら、使用者としての成長を目指している。

宗一郎さんにとって農業のやりがいは、「協力することで得られる達成感」と、「自分の努力が結果に表れること」の二つ。家族や作業員とチームプレーをしながら一年を駆け抜けることで得られる達成感は、他には代えがたい。普段の管理をしつかりすればするほど収量や品質に反映され、頑張った実感が得られる。宗一郎さんはこれからも仲間と時間を大事に、一歩一歩前進していく。



PROFILE

菅原 宗一郎さん (36)
Soichiro Sugawara

一関市滝沢

1990年一関市滝沢生まれ。高校卒業後に岩手を離れて関東で過ごし、結婚を機にUターン。新規就農ワンストップ相談窓口を利用して1年の研修を積み、2023年就農。トマト20㍓。両親、妻、子の6人家族。

